

乙女よ、走れ
沢のぼり
キャンパスの景色
それでもいきていく
こるはの独唱
ひいくんのあるく町
鶴追人

3RD

日本映画大学 卒業制作上映会

2017.2.11^{SAT} — 12^{SUN}

NIHON EIGA DAIGAKU STUDENT FILM FESTIVAL 2017



会場 | イオンシネマ新百合ヶ丘 [入場無料・各ブロック完全入替制]

www.eiga.ac.jp/sotsusei 主催 | 日本映画大学 上映会お問い合わせ窓口 | koukai@eiga.ac.jp

NIHON EIGA DAIGAKU
3RD STUDENT
FILM
FESTIVAL 2017.2.11-12
会場 | イオンシネマ新百合ヶ丘
主催 | 日本映画大学 [入場料 970円(税込)入場料]
日本映画大学 第3回 卒業制作上映会

映画を知り、
人間を知る。
4年間の集大成、
ここに堂々完成。

ドラマ作品



乙女よ、走れ

Aブロック

ドラマ / DCP / 30min

とにかく明るくて奔放な高校一年生の久美は、クラスメイトでガリ勉強くんの俊也から告白される。けれど初デートの日、相手のことなど構いなしの彼女は、あっさりフラれてしまった。親友の本子から別れた理由を聞かれた久美は、本子が俊也のことを好きなのだろうと勘違い。今度は本子を怒らせてしまう。本気の好きって何？ 本気の気持ちって何？ いつまでも変わらないと思っていた毎日が、関係が、うごきはじめる季節。乙女よ、走れ！



沢のぼり

Bブロック

ドラマ / DCP / 30min

父の突然の死から一年。残された家族は力を合わせて暮らしていた。女手一つで母・知美は懸命に働き、妹の菜摘は家事を手伝いながら幼い弟・睦巳の面倒をみる。けれど、中学3年生の長男・大地だけは、そんな日々を受け入れられずにいた。うまくいかない受験勉強や部活。不安や苛立ちを、父の不在のせいにして…。夏のある日、祖母の家に遊びに行った菜摘と睦巳が行方不明になった。大地は、父との思い出の場所だった「沢」へと向かう。



キャンパスの景色

Cブロック

ドラマ / DCP / 30min / ※本作には、一部性的な描写が含まれています。

誰かの役に立ちたいと介護士になった理沙(23)は、四肢麻痺の障害を持つ裕太(30)と出会う。裕太は過去の辛い体験が原因で自室に引きこもり、ひとり油絵を描く日々が続いていた。なんとか彼の心を開こうと努力する理沙。無理難題を押し付けては彼女を困らせる裕太。しかし1枚の絵と理沙の説得が、しだいに裕太を変えていく。トラウマを告白し新たな一歩を踏み出す裕太を前に、理沙は決して越えてはならない一線を越えた。



それでも生きていく

Aブロック

ドキュメンタリー／DCP／46min

内海直人(25)は2年前の交通事故によって意識の有無が判断できない「遷延性意識障害」と診断された。自由に身体を動かさず、喋れない直人に家族は明るく話しかけ、時には彼のリハビリを手伝いもする。医師は、家族が直接関わる事が患者の中に残る「記憶」と結びつき良い効果を生む、と指摘する。映画は直人の知人たちから彼と過ごしていた記憶を集め始める。そして、一緒に生きていく人々の繋がりが記録されていく。



こるはの独唱

Bブロック

ドキュメンタリー／DCP／52min

古びたレコードに耳を傾けるひとりの女性。彼女は、その存在さえほとんど知らされていなかった伯父・村野弘二の調査を行う。音楽学生だった伯父は学徒出陣で亡くなっており、遺品はほとんど残されていない。彼女はやがて没地フィリピンに向かう。一方、二人の音楽学生が村野の遺したオペラ《白狐》の演奏に取り組んでいく。



ひいくんのあるく町

Bブロック

ドキュメンタリー／DCP／47min

平凡な田舎町をいつも歩き回る“彼”は、町のみんなから“ひい君”と呼ばれ、いつも誰かの手伝いをしている。ひい君が歩く町は変わった。「水口屋」の店主・青柳正輝さんは病気で倒れ、大好きな写真を撮りに行くことも難しくなった。正輝さんが撮影した写真には、当たり前前の暮らしが写されていた。ひい君は歩くことで人の記憶に残り、正輝さんは写真で町を記録する。緩やかに、でも確実に変化して行く町。その町を、ひい君は今日も歩いて行く。



鶴追人

Cブロック

ドキュメンタリー／DCP／59min

北海道東部、釧路管内に位置する鶴居村。その村にホテルTAITOを構えるオーナーの和田正宏は、ホテル営業の傍ら、タンチョウの写真撮影を日課にしているプロのカメラマン。そんな和田さんの背景には、父から受け継いだ100年続く伝統のホテル業、絶滅間近だったタンチョウへの給餌活動、そして当時、未開の地であった北海道開拓移民たちの厳しい生活があった――。

本学の卒業制作は4年間の集大成として、企画・脚本・キャスト・ロケハン・リハーサル・撮影・ポストプロダクションなど、専門コースごとに修得した技術を用い、約1年をかけて学生主体で完成させるものです。今年度はバラエティに富んだドラマ3本・ドキュメンタリー4本の映画が完成しました。また予告編などの制作も学生によるものです。制作の過程で数々の困難や失敗を経験しながら、映画を知り、人間を知る。学生たちの想いを、ぜひスクリーンでご覧ください。

 日本映画大学 卒業制作
YouTubeチャンネル



 Facebookページ
@jimisotsusei



タイムスケジュール

2 / 11 (土) ・ 2 / 12 (日) 両日共通	Aブロック 11:30 開場 ※終映後入替	12:00 - 乙女よ、走れ (30min)
		13:00 - それでもいきていく (46min)
	Bブロック 14:00 開場 ※終映後入替	14:15 - 沢のぼり (30min)
		15:00 - こるはの独唱 (52min)
		16:10 - ひいくんのあるく町 (47min)
	Cブロック 17:10 開場	17:25 - キャンバスの景色 (30min)
		18:10 - 鶴追人 (59min)

鑑賞申込方法／入場方法

毎ブロック完全入替・定員制／各ブロックの入場は開場時間より／鑑賞無料

鑑賞にはWEB申込が必要になります
鑑賞券をお持ちの方も当日入場整理券が必要になります

①



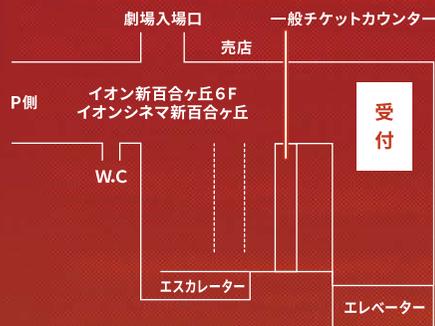
左記のQRまたは
上映会WEBサイトの鑑賞応募フォームから
ご希望のブロックをお申し込みください

②

申込後、受付番号が付与されたメールが自動返信されます

③

エレベーター前の上映会受付にて、受付番号をご提示下さい。
両日11時よりブロックごとの当日入場整理券を発売いたします。
入場には整理券が必要となり、発売は先着順・全席自由席とさせていただきます。



※開場時間に入場ゲートより整列入場となりますので、最寄りのスタッフへお尋ね下さい。

※満席時はご入場いただけませんので、早めに入場整理券をお受取りください。

※各回上映前に作品制作スタッフより舞台挨拶がございます。

※プログラムの関係上、上映開始時刻が前後する場合がございます。予めご了解下さい。

主催 | 日本映画大学 上映会お問い合わせ窓口 | koukai@eiga.ac.jp

会場 | イオンシネマ新百合ヶ丘 (イオン新百合ヶ丘ショッピングセンター 6F)

同時期開催

2月10日・11日・12日 卒論パネル展示・特集上映 会場:川崎市アートセンター



イオンシネマ新百合ヶ丘

イオン新百合ヶ丘ショッピングセンター6F
小田急線 新百合ヶ丘駅下車 南口駅前 (イオン入口左 劇場直通エレベーター有)